

2016 年 1 月 15 日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 佐藤 真久

ベトナム国 ハイフォン幹線道路整備事業
(協力準備調査(有償))
ドラフトファイナルレポートに対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2015 年 12 月 14 日(月) 13:59～17:16
- ・場所：JICA 本部 (1 階 111 会議室)
- ・ワーキンググループ委員：石田委員、作本委員、佐藤委員、谷本委員、二宮委員
- ・議題：ベトナム国 ハイフォン幹線道路整備事業に係るドラフトファイナルレポートについての助言案作成
- ・配付資料：
 - 1) 協力準備調査スコーピング案への助言対応表
 - 2) ドラフトファイナルレポート
 - 3) Environmental Impact Assessment Report
 - 4) Resettlement Action Plan
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010 年 4 月)

全体会合(第 65 回委員会)

- ・日時：2016 年 1 月 15 日(金) 14:33～17:36
- ・場所：JICA 市ヶ谷ビル(会議室：201 AB)

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. 将来の世代がマングローブ域の自然環境を享受できるようにマングローブ林を含む自然環境の保全と便益について FR に記載し、ハイフォン市の将来を見据えた保全策の提案を行うこと。

環境配慮

2. PM_{2.5} を測定項目に加えることの重要性を FR に記載すること。

3. 幹線道路の環境状況の把握において、グラフを修正するなどしてより理解しやすいよう工夫し、FR に記載すること(例えば、環状 3 号線とプーイェン橋のデータをつなげ、グエンチャイ橋は分けて記載するなど)。

4. 大気質の現況について、CO についての記載を FR に追記すること。

5. TSP、PM₁₀、SO₂、NO₂、騒音レベル、DO などは事業実施前の段階で基準値を既に超えているので、ハイフォン市が EMP に定義されている 2 年間を超えて継続的な観測を行い、かつ、適切な対策をとるよう提言として FR に記載すること。

6. 動植物プランクトンの生態は、季節や場所によっても大きく変化するため、サンプルの採取時期や場所を FR に記載すること。また、それらの生態が環境要因(富栄養化など)によるものなのか記載すること。

7. 現地専門家の調査などによると貴重種の存在が確認されなかったことを、FR に記載すること。

8. プロジェクトが予定されているルオットロン川の北側には、幅 200m の濃密なマングローブ林があるので、詳細設計段階において保全策の具体化を行う必要性があることを FR に記載すること。

9. カム川北岸(特にプーイェン島)における新規開発計画において、環境社会配慮にかかる累積的影響(景観への配慮や、親水性の土地利用、マングローブの保全、地域住民の雇用など)についてもハイフォン市に提言することとし、FR に記載すること。

社会配慮

10. 環状 3 号線の建設予定地に存在する、先祖を祭った 3 か所の祭壇(clan ancestral houses)等に関しては、詳細設計段階において住民・コミュニティの意向要望を尊重しつつ必要な対策を講じるように提言として FR に記載すること。

11. 調査に基づく影響評価の表における子どもの権利、労働環境、事故の項目に見られるように、リスク管理・事故防止のための対策(労働環境の整備、安全道路の整備、歩行者の安全確保、普及啓発や訓練)を、各段階で講じるよう、提言として FR に記載すること。

12. 盛土区間が大半を占める環状 3 号線に設置される歩行者・一般車用の横断箇所（ボックスカルバート等）については、詳細設計段階において、住民の意見や要望を確認しつつ設置数・箇所を検討するよう FR に記載すること。

ステークホルダー協議・情報公開

13. ステークホルダー協議における意見・コメントについて、属性（男女等）を FR に記載すること。

その他

14. EMS 実施のためのトレーニングプログラムの対象人数・期間・頻度を明確にし、継続的な訓練と実施状況の確認が重要であることを FR に記載すること。

以上